

エドヒガン回廊

エドヒガンは国内に自生するサクラの一種で、長命なこと（大木が多いこと）、開花期が早いこと、樹皮が縦割れすること、花色が多様なこと、枝垂れ形があることなどの特徴を有しています。分布域は東北地方から九州南部と広いのですが、分布地は限られており、ヤマザクラに比べてめずらしいサクラです。六甲山や武庫川流域には一株も見られないエドヒガンですが、なぜか猪名川上流域にはたくさん分布しています。他の樹木が芽吹く前、3月の下旬ごろに里山の枯木立を背景に白、桃、赤に染まった大木のエドヒガン群はまさに「枯木に花」、「冬枯れ里山に花」といった風情です。

猪名川上流域のエドヒガンの名所をめぐる「エドヒガン回廊」を地図上に創設しました。
「エドヒガン回廊」は能勢電鉄山下駅より始まり、一庫ダム、国崎、黒川、妙見山、高代寺山、妙見口駅を経て、山下駅に戻るルートです。このルートから外れますが、エドヒガンの名所として欠かすことのできない猪名川左岸沿いの水明台、溪のさくらを回廊の飛び地として、まず紹介いたします。

飛川西市水明台 1 丁目 猪名川左岸斜面 『溪のサクラ』（市天然記念物）

水明台の住宅地に隣接する丘陵地の斜面に 130 本ほどのエドヒガンが群生しています。対岸の県道 12 号線から猪名川越しに見るエドヒガンはすばらしいものです。県道 12 号線横にも 1 本のエドヒガン巨木が自生しており、この巨木が対岸のエドヒガン群の母樹と考えられています。



◎ 川西市国崎字知明 卯ノ戸 兵庫県立一庫公園（市天然記念物）
一庫ダムの手前より知明湖の右岸を湖に沿って進み、知明さくら橋を渡って一庫公園に至ります。ダムからここまでの湖岸にたくさんのエドヒガンを見ることができます。公園内の山地には 23 本のエドヒガンが自生しています。その中で最大の個体の幹周は 1.7m とそれほどでもないのですが、高さは 30m もあり猪名川流域では最高の樹高です。このサクラは「さくら ひとくら」と名付けられています。

◎ 川西市黒川 企業の森周辺
国崎クリーンセンターより少し戻って国崎大橋の手前を湖に沿って上流側に向かいます。知明湖キャンプ場、黒川ダリヤ園を過ぎて緩やかな棚田に沿って北へ進むと「企業の森」に着きます。企業の森一帯にエドヒガンが散生しています。

◎ 川西市黒川字大土 黒川桜の森
企業の森のすぐ北側に市民によって再生したエドヒガン 37 本の群生する桜の森が目に入ります。最大のエドヒガンは幹周 3.9m にも達する「黒川 微笑み桜」です。エドヒガンだけではなくヤマザクラ、カスミザクラも多く、長期にわたってサクラの花を楽しむことができます。桜の森より国道 477 号線に上り、そこから見るエドヒガン等のサクラの競演は見事です。



◎ 川西市一庫 一庫ダム駐車場北側山地斜面
能勢電鉄山下駅より少し歩くと一庫大路次川に着きます。この川に沿って遡って行くと一庫ダムが見えますが、ダム東側の山地斜面にエドヒガンが生育しています。エドヒガンの植栽されている一庫唐松公園より上ると一庫ダム駐車場に着きます。前を走る県道 604 号線の上部の山地斜面にエドヒガン 5 本が自生し、その周囲に 15 年ほど前に植栽された約 50 本のエドヒガンが生育しています。近年、猪名川流域では各地でエドヒガンが植栽されていますが、当地のエドヒガン植栽群はダム周辺のエドヒガンの種子より育てられた地域性苗木が用いられており、地域性苗木の利用としては猪名川流域ではもっとも古い例です。



◎ 川西市国崎字小路 国崎クリーンセンター（市天然記念物）
一庫公園より知明湖沿いに右岸側を北上すると国崎クリーンセンターに着きます。同センターの敷地内の山地にエドヒガン約 250 本が数力所に分散して生育しています。猪名川流域ではエドヒガンの生育密度がもっとも高い所です。



◎ 川西市黒川 ケーブル黒川駅

桜の森より国道 477 号線を南下し徳林寺や炭焼き窯跡を過ぎると妙見の森ケーブル黒川駅が見えてきます。ケーブル周辺の山腹には約 40 本のエドヒガンの大木が自生しています。ケーブル沿いに植栽されたソメイヨシノも含めて黒川駅より山腹を望む景観はすばらしいものです。中でもケーブルに向かって右側斜面に生育するエドヒガンの花色は鮮やかな赤なので、そのサクラは秘かに「さくら くない」とよばれています。



◎ 川西市黒川 上杉尾根

妙見の森からリフトに乗って妙見山山頂に向かいます。リフトを降り案内板に導かれ 5 分ほど歩くと妙見山のブナ林（大阪府天然記念物・川西市天然記念物）に着きます。ブナ林内の奥には入れませんが、そこには妙見山周辺のエドヒガンの母樹と思われる巨木が生育しています。妙見山より山上駐車場を経て上杉尾根を下ってゆくとエドヒガンが群生している所を通過します。とげとげの樹皮が特徴的なカラスザンショウの大木とエドヒガンが並んで生育しているのはおもしろいですね。



◎ 川西市笹部の里山

妙見口駅より能勢電鉄に乗って山下駅へ向かいます。笹部駅付近では進行方向右側車窓よりエドヒガンの遠景を楽しめます。笹部駅を過ぎると次は山下駅です。

山下駅に着けば、これでエドヒガン回廊を一周したことになります。全コースを 1 日でまわるのは無理なので、何回かに分けて楽しんで下さい。

エドヒガンの特徴

花卉のガクが丸く膨らむ

葉の表ウラ両面に毛がある

葉柄にも毛がある

葉の付け根に蜜腺という突起物が 1 対ある



エドヒガンはその名前の通り彼岸の頃に咲くとされ、3 月半ばから 4 月半ばにかけて様々な色合いの花を見せてくれます。

- ・葉は細身で、樹勢も背が高い
- ・樹皮に縦筋が走っている
- ・花卉のガクが丸く膨らんでいる
- ・花卉がソメイヨシノより小ぶり
- ・濃い色や薄い色などさまざま
- ・開花時期もバラバラで開花期間も長め



妙見の森ケーブルをそっと見下ろす

さくら ぐれない（桜紅）



【妙見の森ケーブル黒川駅付近から撮影 2016年4月3日】

という園芸品種です。ソメイヨシノは接ぎ木等の栄養繁殖で増やされたので、遺伝子からみると同一個体であり、花色、開花期等に差がなくソメイヨシノの個性を楽しむということはできません。それに対して野生のエドヒガンは花色、花形、開花期、葉形、樹形などにおいてたいへん多様です。妙見の森ケーブル黒川駅より山を望むと白、ピンク、赤の様々なエドヒガンの花色を楽しめます。

さらに、黒川駅と山上駅の海拔差が223mほどあることによって、長期にわたってエドヒガンの花を見ることができるとも当地の特色です。植栽されているソメイヨシノも一緒に楽しむことができます。

黒川駅からケーブル中間点付近を眺めると、右側山腹斜面にクヌギ林とヒノキ林に囲まれて生育している大木のエドヒガンに目がとまります。そのエドヒガンについては、まだ誰も調査をしていないので正確なことはわからないのですが、およそ高さ20mを超えるような大木で、樹形がすばらしいだけではなく、花色の鮮やかさがまわりのエドヒガンやソメイヨシノの花色と比べてひときわ目立ちます。近づくことのできない立地に生育しているため遠くから眺めるだけなのですが、このことがこのエドヒガンの神秘的な美しさを際立たせているようです。

このエドヒガンの花の色は鮮やかな赤色なので、このさくらを私は「さくら ぐれない（桜紅）」とよんでいます。

大伴家持（おおとものやかもち）は
「春の苑 紅（ぐれない）にほふ 桃の花 下照る道に いで立つ乙女」
と桃の歌を万葉集に詠んでいます、
桃を桜に替えると
「黒川の紅（ぐれない）にほふ さくらばな
下照る谷を 登るケーブル」
と詠めますが、いかがでしょうか。

本文監修 兵庫県立大学名誉教授 服部 保
制作・発行 能勢電鉄 2020年3月
お問合せ先 能勢電鉄 鉄道営業課 072-792-7716
(平日 9:00 ~ 17:30)

エドヒガンはヤマザクラと同様に野生のサクラの一種で、九州から東北まで国内に広く分布していますが、ヤマザクラやカスミザクラと比べると個体数ははるかに少なく、分布する地域に偏りが認められます。兵庫県内では日本海側と猪名川上流域に多く見られます。

猪名川の西隣を流れる武庫川の流域には自生と認められるエドヒガンが1本も発見されていないのは不思議ですね。

ただし、猪名川上流域の全域にエドヒガンが分布しているというわけではなく超丹波帯という地質が広がっている地域を中心に分布していることがわかっています。崩れやすく、裸地を作りやすい超丹波帯の地質特性と裸地に侵入・定着するというエドヒガンの生育条件が合うのでしょう。

妙見の森ケーブル一帯の山地の地質もまさに超丹波帯であり、急傾斜で崩壊した小石が堆積した立地に30本ほどのエドヒガンが自生しています。妙見の森ケーブルに沿って植栽されているサクラはエドヒガンとオオシマザクラを交配させて作られたソメイヨシノ



【妙見の森ケーブル黒川駅から撮影 2014年4月4日】



【妙見の森ケーブル黒川駅から撮影 2016年4月6日】

のせでん沿線

エドヒガン回廊

ぶらり気ままにお花見ウオーク！

